保育系短大生における施設実習後の施設イメージの変化

宮崎　隆穂・吉川　明守・宮越　敏夫

The experience as a trainee changes the image on an institute for social welfare among college students.

Takao Miyazaki, Akimori Yoshikawa, Toshio Miyakoshi

はじめに

保育士資格とは児童福祉施設において「児童の保育に従事する」ためのものであるが、資格取得を志望して短大に入学する者や、あるいは資格保持者にとっては「保育園」で働くということが圧倒的に多く、それ以外の選択肢は現実的にも一般的なものではないように思われる。しかし、保育士資格は児童福祉法に定めるいずれの児童福祉施設にも共通のものであり、資格を得ようとする学生は、厚生労働省の基準により「保育実習」（必修）および「保育実習Ⅲ」（選択必修）を履修しなければならない。このうち「保育実習」（本学においては「保育実習Ⅰ」）のなかで、保育園とそれ以外の施設、「保育実習Ⅲ」で「保育実習」で行った施設以外での実習が課せられるのである。[1)]施設実習の意義に関しては、たんなる同情心からではなく、真のヒューマニズムに根差した、十分な援助技術を身につける、[1)]など多数挙げられているが、様々な現場における保育の実践を体験することにより、保育とは何か、療育とは何かということを相対的にとらえるきっかけになるということも考えられる。しかしそのような意義が前提とされているにもかかわらず、ただでさえ（学生にとっては）想定外の実習が必須であるという事情に加え、学生自身の希望通りの社会福祉施設で実習が行われるわけでは必ずしもないという状況は、学生の実習に際しての心理的不安を増大させているものと思われる。また、事前・事後指導を行う養成校の教員の側にあっても施設実習の扱い方をどう考えるべきかについては、一般的に共通する課題として養成校同士の連絡協議会でも話題になることも多い。

全体としての実習、及び事前・事後指導に関する研究は、かなりの程度蓄積されてきている。[2)]梅田は、Ⅰ　実習に関する意識調査、Ⅱ　実習および事前事後指導の在り方について　Ⅲ　評価　という観点からこれまで発表された研究をまとめている。[2)]その中でⅠ　実習に関する意識調査　に分類される研究の中で、実習中及び、実習前後の学生の意識調査に関する研究では、実習中の心理・社会的ストレッサー、生活及び健康状態の実態を検討したものがみられるとしている。[3)]しかし、保育実習の中でも特に施設実習に焦点を当てた研究はほとんど見られない。また、施設実習を体験することが当の学生にとってどのような意義を持っているのかという点について基礎的に検討した研究はない。

そこで我々は、施設実習体験が学生にどのような影響を及ぼすのかを検討することを計画した。特

に本研究では、施設実習体験が学生の持っている社会福祉施設に対するイメージにどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的とする。

方　法

１．調査対象者

本学幼児教育学科２年生128人に質問紙調査を実施した。128人中保育士資格の取得を希望しているものは127人（99.9%）であるが、このうち３回のアンケート調査すべてに回答した102名を分析対象者（以下対象者）とした。

２．質問紙

質問項目は、学籍番号、氏名、性別、年齢など人口統計学的データを得る項目と、SD法を参考にした施設イメージを測定する形容詞対24項目を含むものから構成された（附録参照）。施設イメージを測定する形容詞対はたとえば（暗い一明るい）という対義語に相当するものが両極に並べられており、自分自身の持っている社会福祉施設に対するイメージに近い方を７件法にて評定してもらった。回答はすべて自己記述式で、繰り返し測定があるために記名方式をとった。

３．手続き

調査は、第一班が施設実習に行く直前の事前指導の時間に第一回目（X年５月）、第一斑が施設実習から帰ってきた後の事後指導の時間に第二回目（X年６月）、第二班・三班が施設実習から帰ってきた後の事後指導の時間に第三回目（X年10月）を全員に対して合計三回回答してもらった。それぞれの質問紙の内容は同一である。調査研究の趣旨に関しては、事前に説明を行いインフォームドコンセントのとれた者に対して協力を依頼し、102名を対象者とした（協力、回収率80.3%）。それぞれの回答の所要時間は約15分であった。

４．統計処理

調査データは、データ分析ソフトSPSS12.0J for Windowsを用いて集計、分析された。

結　果

１．調査対象の概要

対象者は、実習時期によって三班に分けられる。まず実習の事前指導として、５回の講義があり、最後の時間に第一回目の調査が行われる。その後第一班（53名）はX年５月12日～５月26日までの期間に２単位の施設実習を実施している。第一班が施設実習から帰ってきた後、6月に第二回目の調査が行われている。さらにその後第二班・第三班（49名）はそれぞれX年８月と９月に施設実習を実施している。第二班・第三班が実習を終わった後、第三回目の調査が行われている。性別の内訳は、男性11名（10.1%）、女性91名（89.9%）であった。

２．因子分析による項目の集約

施設イメージの変化の測定を簡便にするため、第一回目の調査データをもとに因子分析を行い分析対象とするべき項目を絞りこんだ。因子の抽出方法は最尤法を用い、直交回転であるバリマックス回転を採用した。因子数の決定には、固有値１以上の基準、スクリー法などを用い、最終的な因子の解釈のしやすさなどを考慮した結果、２因子解を採択した。その結果、第一因子には、因子負荷量の高い順に項目５（親しみやすい一親しみにくい）、項目11（暗い一明るい）、項目19（固い一柔らかい）

などが含まれ、「とっつきやすさ」の因子と命名された。また第二因子には、因子負荷量の高い順に項目６（うすっぺらな一深みのある）、項目16（つめたい一あたたかい）、項目８（粗野な一洗練された）などが含まれ、「洗練された温かさ」の因子と命名された。それぞれの因子を代表する得点として、因子負荷量の高い順に上位３項目の項目得点が加算され、合成得点が産出された。その際、「とっつきやすさ」因子の項目５（親しみやすい一親しみにくい）は他の二つの項目と因子負荷量の符号が逆であったため、（親しみにくい一親しみやすい）という項目になるように項目得点の変換がおこなわれ、合成得点が産出された。「とっつきやすさ」「洗練された温かさ」因子の合成得点の理論的得点範囲は、3-21点であり、それぞれ得点が高いほど、その個人が社会福祉施設に対して「とっつきやすい」あるいは「洗練された温かさ」というイメージを強く感じていることを示唆する。またそれぞれの因子の合成変数を尺度として考えた際、それぞれの尺度の内的一貫性はCronbach's α係数によって検討できる。「とっつきやすさ」尺度のα係数は0.72、「洗練された温かさ」尺度のα係数は0.77であり、それぞれ３項目で構成された尺度であることを考慮すると十分な信頼性を保持していた。

３．実習体験による施設イメージの変化

実習体験による施設イメージの変化を検討するため被験者間因子と被験者内因子を組み合わせた繰り返し測定のある分散分析を行った。被験者間因子については、実習体験月によって２水準の被験者間要因、すなわち第一班のグループは５月に実習体験をするという水準（以下５月グループ）に設定し、第二班・第三班のグループは８月・９月に実習体験をするという水準（以下８月・９月グループ）に設定した。繰り返し測定の被験者内因子に関しては、都合三回にわたる施設イメージに関する測定値をそれぞれの水準（５月、６月、10月）に割り当てた。従属変数は「とっつきやすさ」合成得点、「洗練された温かさ」合成得点の二つであり、それぞれについて繰り返し測定のある分散分析を行った。

まず、「とっつきやすさ」合成得点については、実習体験月×測定時期の交互作用が統計的に有意であった（Wilks's λ=0.83, df 2/99, p<.001）。単純主効果検定を行った結果、６月の測定時期において、実習体験月による「とっつきやすさ」得点の平均値の差が統計的に有意であることが明らかになった（５月グループの平均値15.2、８・９月グループの平均値12.0：図１参照）。また、５月グループにおける、５月ー６月の測定時期間での平均値の変化、８・９月グループにおける６月ー10月の測定時期間での平均値の変化が統計的に有意であることが明らかになった（図１参照）。

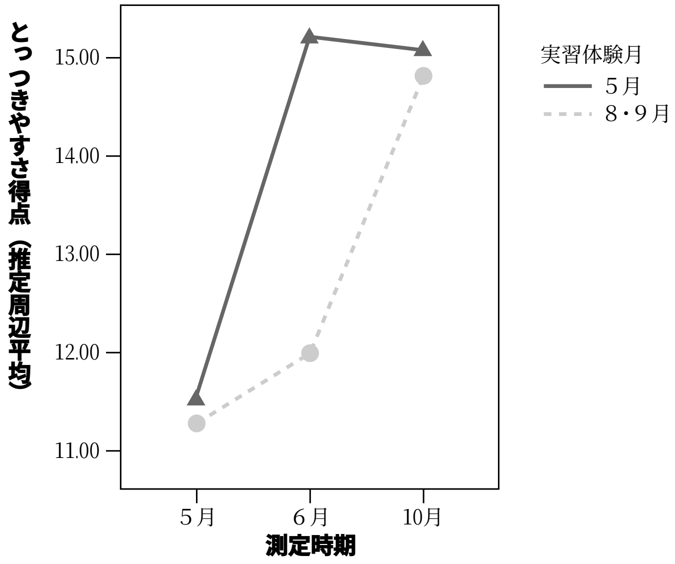

図１　「とっつきやすさ」得点の変化

また、「洗練された温かさ」合成得点については、実習体験月×測定時期の交互作用が統計的に有意傾向であった（Wilks's λ=0.95, df 2/99, p<.09）。単純主効果検定を行った結果、６月の測定時期において、実習体験月による「とっつきやすさ」得点の平均値の差が統計的に有意であることが明らかになった（５月グループの平均値16.6、８・９月グループの平均値15.4：図２参照）。また、５月グループにおける、５月ー６月の測定時期間での平均値の差、８・９月グループにおける６月ー10月の測定時期間での平均値の差が統計的に有意であることが明らかになった（図２参照）。５月グループにおける、6月ー10月間の平均値の変化、また10月測定時期における5月グループ、８・９月グループの平均値の差は統計的には有意ではなかった。

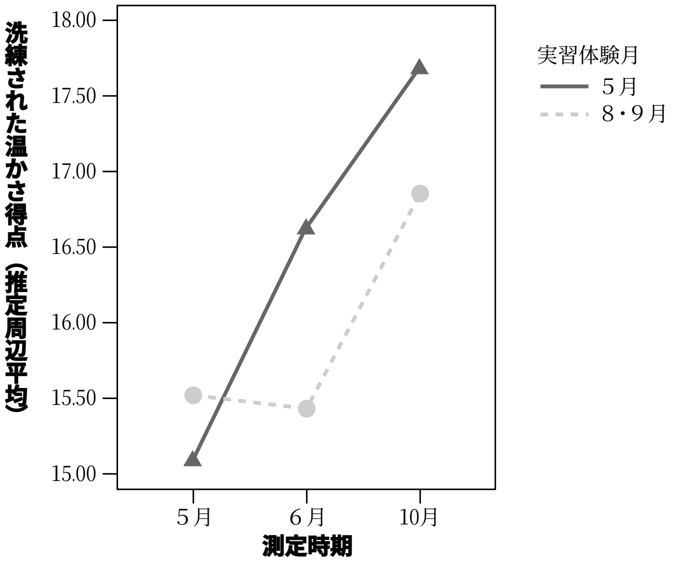

図２　「洗練された温かさ」得点の変化

考　察

本研究では、保育実習の中でも施設実習に特に焦点を当て、施設実習体験が学生の持っている社会福祉施設に対するイメージにどのような影響を与えるか、検討を行った。SD法を参考に学生の社会福祉施設に対するイメージを測定し、因子分析を行った結果、「とっつきやすさ」因子と「洗練された温かさ」因子が設定された。この二つの因子を参考に合成変数が算出され、簡便に実習体験による施設イメージの変化を検討することが可能になった。繰り返し測定のある分散分析を行った結果、５月グループでは６月の測定時期を境に、８月・９月グループでは10月の測定時期において施設イメージが変化することが明らかになった。すなわち両群とも実習体験を期に、施設イメージがより「とっつきやすい」ものになり「洗練された温かさ」を想起させるような傾向が強まることが確認された。こうした施設イメージの変化は８月・９月グループにおいては、10月の測定時期まで生じない現象であり、このことは施設イメージの変化が偶然の変動によるものではなく、あきらかに実習体験の影響である可能性が高いことが、（図１）、（図２）から示唆された。また、特に「とっつきやすさ」得点について、５月グループでは実習直後の変化（６月の測定時期）が４カ月後の10月の測定時期においても持続していることが明らかになった。このことは、実習体験による施設イメージの変化が一過性のものではなくすくなくとも数カ月のオーダーで継続するものであることを示唆している。今回の結果からは少なくとも実習体験によって学生の社会福祉施設に対するイメージが「とっつきやすく」「洗練された温

かさ」を持つ方向へ変化することが明らかになり、全体的にポジティブなイメージをある程度長期間獲得できる可能性が高いことが明らかになった。

問題点としては、ポジティブなイメージを獲得できるかそうでないかがどのような要因によってきまるのかいまだ明らかでないことなどがあげられる。これは性差なのか、モチベーションの差なのか、ボランティア体験の有無など経験の差なのか様々な要因が考えられるが、さらに被験者数を増やすなど研究を積み重ねるうえで、今後の課題としたい。こうした結果を利用して、さらに事前指導の段階でどのような学生に対してサポートを行う必要があるのか検討するなど、今後の実習指導の改善に役立てていく予定である。

引用・参考文献

１）教育・保育実習を考える会　編、新版　施設実習の常識　「福祉を実践するための66項」、蒼丘書林、1998、30ページ

2）梅田優子、「教育・保育実習に関する研究の動向」県立新潟女子短期大学紀要、39（39）、2002.3、59-68ページ

3）松永しのぶ、坪井寿子、田中奈緒子、伊藤嘉奈子、「保育実習が学生の子ども観、保育士観に及ぼす影響」鎌倉女子大学紀要、9、22-23ページ

付録

調査のお願い（幼児教育学科２年生の皆様へ）

幼児教育学科施設実習担当
宮崎・吉川・宮越

これから、施設実習での実習体験が皆さんにどのような影響を与えるのかを調査するためにいくつかの質問項目を用意しました。この調査は授業の効果の評価の一環のために行われるものであり、記名調査（名前を書いていただく調査のこと）ですが、これらの質問への回答の内容によって施設実習の授業の成績評価に影響を与えることは一切ありません。ですから自分自身が感じていること、あるいは事実をありのまま、率直にお答え下さい。一連の調査はこれで終了です（幼児教育学科の学生全員がお答えください）。結果については何らかの形で皆さんにも報告いたします。ご協力の程よろしくお願いいたします。

学籍番号		氏　名	

Ⅰ．第２・３班の人だけ回答してください。（記入または○をつけてください）

①　実習を終えてみて、実習に対してどの程度満足していますか?
　　０－100までの間で得点（○）をつけてください。

全く満足できない	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	非常に満足

Ⅱ．社会福祉施設に対するイメージの調査（当てはまる場所に○をしてください）

この実験は、形容詞によるものさしを使い、ある事物が人によりどのような意味を持つかについて調べるものです。今回は「社会福祉施設」があなたにとってどういう意味を持つかを考えた上判断してください。あなたが社会福祉施設に対していだいているイメージに近いものを答えてくだされば結構です。裏のページに形容詞を両端につけた一連の尺度が印刷されていますから、それぞれの尺度について当てはまるところに○をつけてください。

たとえば、尺度の両端の形容詞のどちらかが非常によくあてはまる場合には下のように印をつけます。

強　い	1	2	3	4	5	6	7	弱　い

または

強　い	1	2	3	4	5	6	7	弱　い

もしもどちらかの形容詞がややあてはまる場合には、下のように印をつけてください。

公正な	1	2	3	4	5	6	7	不公正な

または

公正な	1	2	3	4	5	6	7	不公正な

このように判断の対象となっている事物が尺度のいずれの方向の形容詞にどの程度あてはまるかをチェックしていくのです。もしもその事物が尺度の中間に位置するとか、どちらの形容詞もまったくあてはまらないと考えた場合には、尺度の中心に印をつけてください。

安全な	1	2	3	4	5	6	7	危険な

また、ひとつの尺度に対して二つ以上の○はしないようにしてください。

付録

以下の項目に関して、「社会福祉施設」と聞いてあなたがどのようなイメージを持っているのか、最も近いところに〇を記入してください。

		非常によくあてはまる	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	ややあてはまる	よくあてはまる	非常によくあてはまる	
1	好　き	1	2	3	4	5	6	7	嫌　い
2	やぼったい	1	2	3	4	5	6	7	しゃれた
3	特色のある	1	2	3	4	5	6	7	ありきたりな
4	つまらない	1	2	3	4	5	6	7	楽しい
5	親しみやすい	1	2	3	4	5	6	7	親しみにくい
6	うすっぺらな	1	2	3	4	5	6	7	深みのある
7	美しい	1	2	3	4	5	6	7	醜　い
8	粗野な	1	2	3	4	5	6	7	洗練された
9	わかりにくい	1	2	3	4	5	6	7	わかりやすい
10	動的な	1	2	3	4	5	6	7	静的な
11	暗　い	1	2	3	4	5	6	7	明るい
12	強　い	1	2	3	4	5	6	7	弱　い
13	繊細な	1	2	3	4	5	6	7	大胆な
14	地味な	1	2	3	4	5	6	7	派手な
15	のんびりした	1	2	3	4	5	6	7	はりつめた
16	つめたい	1	2	3	4	5	6	7	あたたかい
17	軽　い	1	2	3	4	5	6	7	重　い
18	淡　い	1	2	3	4	5	6	7	鮮やかな
19	固　い	1	2	3	4	5	6	7	柔らかい
20	不安定な	1	2	3	4	5	6	7	安定した
21	大きい	1	2	3	4	5	6	7	小さい
22	複雑な	1	2	3	4	5	6	7	単純な
23	狭　い	1	2	3	4	5	6	7	広　い
24	現実的な	1	2	3	4	5	6	7	幻想的な

以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました。